

パUNK 神経ブロック針

再使用禁止

JPJF0116

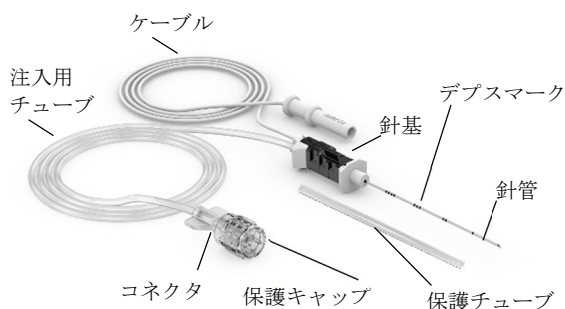
【禁忌・禁止】

- ・再使用の禁止。[再使用による機能低下並びに交差感染のおそれがある。]

【形状・構造及び原理等】

[形状・構造]

※本品は針管と針基、注入用チューブで構成されている。針管表面は絶縁加工されており、深度マークが施されている。神経刺激装置と接続するためのケーブルを有しているものと有していないものがある。針の先端形状はファセット型、ファセットS型がある。針管表面に超音波画像下において視認可能な加工（コーナーストーン加工）が施されているものもある。針外径を示すカラーコードを針基に施してある。



※・針の先端形状

ファセット型	ファセットS型

非絶縁部：ファセット型は針先端部のみ
ファセットS型は針断面部の円周上

[原材料]

針管：ステンレス鋼、ポリレン
注入用チューブ：ポリ塩化ビニル
コネクタ：ポリカーボネート

[作動・動作原理]

本品は神経刺激装置または超音波画像診断装置と併用することで、目的の神経に局所麻酔薬等を注入させる機器である。

【使用目的又は効果】

※経皮的神経ブロック手技のために、本品単独で局所麻酔薬等の薬剤の注入に用いる麻酔針である。本品は絶縁加工されており、滅菌済みである。

【使用方法等】

[神経刺激装置接続]

- 1) 本品を包装から取り出し、ケーブルに神経刺激装置を接続する。注入用チューブが針基に確実に接続されていることを確認する。（接続方法は神経刺激装置の取扱説明書に従うこと。）
- 2) 針管の保護チューブ及び注入用チューブの保護キャップを取り外し、局所麻酔薬が充填されたシリンジをコネクタに接続する。
- 3) 局所麻酔薬をシリンジから押し出し、針管内及び注入用チューブの空気を除去する。
- 4) 皮膚表面を消毒し、針管を適切な部位に穿刺する。
- 5) 電気刺激による運動反応を確認しながら、針先を目標部位まで誘導する。
※電気刺激は目的の神経に近づけながら徐々に電気刺激強度を下げる。
- 6) 局所麻酔薬を注入する。
- 7) 手技終了後、針を抜き適切な処置を行う。

[使用方法等に関連する使用上の注意]

- ・本品の使用前に必ず、ゲージサイズや長さの確認を行うこと。
- ※・神経刺激装置に接続しない場合、ケーブルを針基から取り外すことができる。その際、針管に保護チューブを施した上で、片手で針基をしっかりと持ち、もう一方の手でケーブルを引張って外すこと。[術者や患者を傷つけるおそれがある。]
- ※・ケーブルを針基から取り外す場合、患者への穿刺前に外すこと。[患者の穿刺部を損傷するおそれがある。]
- ※・ケーブルを外した場合、針基に再装着しないこと。[動作を保証できない]

【使用上の注意】

[重要な基本的注意]

- ・本品との互換性が確認された神経刺激装置にのみ接続すること。
- ・穿刺時の神経損傷に十分注意すること。[神経損傷等の合併症を引き起こすおそれがあるため。]
- ・針に過剰な負荷を与えないこと。[組織の損傷、裂傷及び本品の破損のおそれがある。]

【保管方法及び有効期間等】

[保管の条件]

水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避け、室温で保存すること。

[有効期間]

包装の使用期限欄を参照[自己認証による]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

■製造販売業者

株式会社ジェイエスエス
大阪市中央区道修町1-6-7 TEL:06-6222-3751

■外国製造業者

パUNK社(Pajunk GmbH Medizintechnologie)
ドイツ

お問い合わせ先



株式会社 インターメド ジャパン

TEL:06-6222-1951

取扱説明書を必ずご参照ください